

平成 20 年度 JAXA 学校宇宙連詩への取り組みの報告  
協力機関担当者からの報告

プラネタリウムで発表会

町田市制 50 周年記念事業 屋根のない博物館「玉のよこやま」アート&ウォーク  
実行委員 小林則子

このイベントは東京都町田市によるもので、地域資源を生かして町と人とを元気にするために行なわれました。五藤光学研究所に所属している私は、2008 年 3 月まで町田駅前にあったプラネタリウム「東急まちだスターホール」の運営を行っていたことをきっかけに、この事業に参加しました。2008 年 11 月 22 日から 3 日間、地域で活躍中の多くの方と共に、町田市堺地区の行政サービス施設である堺市民センターを臨時の「子ども博物館」とし、様々な催しを行なうことになりました。その一つが、直径 9 メートルのエアードームと本格的な機材によるプラネタリウムです。

開催は決まったものの、どのような内容がふさわしいか悩んでいた時、以前日本プラネタリウム協会（JPS、現 JPA）の集まりで知った宇宙連詩の話題が出ました。地域の子も達と一緒にプラネタリウムで何かできたらイベントの趣旨にもピッタリだと考え、協力して下さる学校を探すことにしました。ちょうど実行委員に同地区にある堺中学校のボランティアの方がいらっしゃったことから、堺中学校の栗城先生と出会うことができました。他にも興味を持たれる学校がないかチラシを配布するなどしましたが、あまり反響がありませんでした。やはり人から人へ熱い想いを直接伝えていかないと仲間を増やすことは難しいと感じました。

11 月 5 日、堺中学校で 1 学年生徒向けに宇宙連詩の授業が行なわれました。そして同 24 日、仮設プラネタリウムで宇宙連詩の中間発表を行ない、約 50 人の見学者が見守る中、21 人の生徒が詩を朗読しました。星空の下、子ども達自身が語るその素直な想いに、その場にいる人々の心がつながったひと時でした。

今後、実行委員として関わった宇宙連詩が宇宙に飛び立つと思うと、今からとても楽しみです。